



さいおう

彩央

創刊号

いきがい大学伊奈学園
彩央会 会報

発行 平成19年7月
発行人 松本紀久夫

地域活動のSLになろう

夢列車「彩央会号」が走り出しました

会長 松本 紀久夫



去る3月10日「いきがい大学伊奈学園 彩央会」が誕生しました。すでにイナ・ヴォイスに加盟している4つのOB会に次いで5番目の地域組織です。

会員には、桶川～熊谷間および近郊の居住者、1～16期生82名が入会されました。

ところで、会の結成を呼びかけたときのアンケートにうれしい発見がありました。答えていただいた方々の専門や特技さらに、いま手がけている奉仕活動（囲碁という古典的な趣味から今日的なNPO活動参加まで）の多彩さに感銘しました。取り組んでいる活動種目は延べ350を超え、質量ともにすごいパワーです。

混迷した社会にひるまず前向きに生きている、その積極性と活力にわたしは勇気づけられたのです。

この豊富な人材バンクがこれからの彩央会活動の原動力になると確信しています。

かえりみれば、いきがい大学が設立されて18年、ここへきて学園の目的が「高齢者の仲間づくり」から「地域で役に立つ高齢者の育成」へと変わりました。

年寄りはかつて弱者とか、濡れ落ち葉とか蔑称されましたが、いまや豊かな経験と知恵を身につけた地域社会のリーダー役と期待されています。

高齢者は、見かけは古めいて武骨、しかし、みずからの力で牽引するSLの勇姿に見えます。

理想を求め、夢を叶える新しい夢列車「彩央会号」は走り始めました。

出発進行！

かねて準備を重ねてきた私たちの「彩央会」は三月十日（土）北本市文化センターで設立総会を開催し、晴れて誕生しました。また、六月十六日（土）には、平成十九年度の定期総会を開き、活動計画などを承認して、新たな第一歩を踏み出しました。

彩央会の目的は、親睦、いきがい、地域貢献の三つですが、これに賛同して入会された会員は七月一日現在八十二名になつていきます。一期生から今年三月卒業の十六期生まで予想以上に実に多彩な顔ぶれが集まりましたが、特に、大先輩の一期生から二名の参加があったことは心強い限りでした。

なお、設立総会には、いきがい大学伊奈学園の遠藤所長と、定期総会には、財団法人長寿社会開発センターの薬師寺企画課長と小山係長がご来賓としてお見えになりました。指導をいただきました。

今年の主な事業

言うまでもなく、わたしたち高齢者は「いきがい」を求めています。多くは個人的な趣味や親睦からそれを手にしていますが、理想を言えば社

彩央会設立される

会奉仕から得られる満足感こそが真のいきがいではないでしょうか。

ただ会員の考えはさまざまです。親睦だけを目的にしている人もたくさんいますので、交流会の発言にもあったように、まずは、やりやすい親睦事業から始めるのが現実的でしょう。

そういうことで今年の事業はやりやすい親睦事業を主体に、エリア全体、市単位、個人やサークルなど各班にわたって、一般市民への奉仕活動等もふくめながら、実施していくことにしました。ちなみに、全会員を対象にしたエリア全体の事業は次のとおりです。

- 6・16 総会と懇親会
- 7・1 会報創刊
- 9・12 研修会と懇親会
- 11・6 ウォーキングと懇親会

三々し々の
悠久の服も醒め
今もも見事な
行田市 古代蓮の苑
ひさきまーいん

七月十五日（日）
古代蓮公園祭りに出席
されまう。 小瀬功栄伝



平成19年6月撮影 埼玉県行田市古代蓮



技

総会で決まったさまざまな事業を実施するには優れた知識と技能と経験を持った人が必要です。幸い彩央会の会員にはこれらの「特技」を備えた人たちがゴマンといるのは会長の巻頭文のとおりです。

定期総会で配布した、略称「趣味表」を見てください。講演会の講師とかパソコン技術とかはもちろん、紙芝居やお年寄りの傾聴ボランティアにいたるまでまさに多士済々です。会の運営に当たってこの人材バンクを活用しない手はありません。

みなさんの積極的なご協力を期待しています。



愛

会員募集の結果残念に賛同しながら健康をそこねて入会を辞退した人びとがおられたことでした。もちろん、この方々も仲間であることに変わりありません。

こうした人たちの相談相手になったり、各種の催しに招待したり、みんなで心のこもった「愛の手」を差し伸べましょう。



声

事業を進めるにあたっては会員の声を中心に進めることは言うまでもありません。そこでおよそ八十名の会員の声に耳を傾けて見ました。三月の設立総会後行われた科別交流会およびアンケートではつぎのような意見が寄せられています。

- ・高い目標の事業を行うことも必要だが、力まず自然体でいこう
- ・まずは始めやすい親睦行事、たとえばバーベキューなどから中心になる人のこの指とまれ方式で
- ・すぐれたリーダーが必要
- ・会員の特技の活用を
- ・必要なら外部講師を招くことも
- ・ボランティア、サークルなどの人材を活用
- ・地域活動やボランティアは無理なくできるものから
- ・行政との連携、役割分担を考慮
- ・ボランティアをやりたいのでその情報を
- ・活動は期や科よりも地域を中心に
- ・ローダイ上尾など他の例を参考に
- ・私にできることがあれば協力したい
- ・次回も参加したいという気をおこさせる催しを
- ・会の予算が窮屈だから自弁も覚悟
- ・別の活動で手一杯で余力なし



旅

一八七〇年（明治三年）和歌山県潮岬沖でトルコ（土耳其）船が遭難したとき、漁師たちの献身的救援活動がトルコ人の多くの命を救いました。今に至る日土友好の架け橋となった歴史上のひとこまでです。

五月、わたしはそのトルコに旅をしました。BC三世紀ごろの面影を残すエフェソスの遺跡では、かねて憧れていたクレオパトラとアントニオ



が歩いた古道をわたし自身の足で確かめることができ、躍るような胸の高まりを抑えられませんでした。また、その日の夕方、小高い丘の上から見たエーゲ海の美しい光景も忘れられません。エメラルドに輝く美しい入江、白い帆船、そして暮れなぞむ夕空：まさに中世の一幅の名画を見るようで、地球のすばらしさに涙せんばかりの感動を満喫することができました。

役員名簿

（十九年六月十六日選出 任期一年）

| | | | |
|-----|-------|----|------|
| 会長 | 松本紀久夫 | 北本 | 十三期 |
| 副会長 | 岩沢 正明 | 北本 | 十二期 |
| 同 | 小瀬 功 | 北本 | 十三期 |
| 同 | 品川 西茂 | 北本 | 十三期 |
| 同 | 荒巻 圭子 | 北本 | 十四期 |
| 同 | 岩沢 正明 | 北本 | 七期 |
| 幹事 | 日原美代子 | 北本 | （兼務） |
| 同 | 紺木 正明 | 北本 | 十三期 |
| 同 | 秋池 茂夫 | 北本 | 十四期 |
| 同 | 川村 修 | 北本 | 十四期 |
| 同 | 緒方 利之 | 北本 | 十四期 |
| 同 | 江中 建三 | 北本 | 十五期 |
| 同 | 佐野 吉弘 | 北本 | 十六期 |
| 同 | 高橋 清 | 北本 | 十三期 |
| 同 | 野口さちこ | 北本 | 十二期 |
| 同 | 岩沢 正明 | 北本 | 九期 |
| 同 | 満田 健 | 北本 | 十二期 |
| 同 | 天野 省三 | 北本 | 九期 |
| 同 | 岩沢 正明 | 北本 | 十二期 |
| 同 | 野口さちこ | 北本 | 九期 |
| 同 | 高橋 清 | 北本 | 十二期 |
| 同 | 佐野 吉弘 | 北本 | 九期 |
| 同 | 江中 建三 | 北本 | 十二期 |
| 同 | 緒方 利之 | 北本 | 九期 |
| 同 | 川村 修 | 北本 | 十二期 |
| 同 | 秋池 茂夫 | 北本 | 九期 |
| 同 | 紺木 正明 | 北本 | 十二期 |
| 同 | 日原美代子 | 北本 | 九期 |
| 同 | 岩沢 正明 | 北本 | 十二期 |
| 同 | 荒巻 圭子 | 北本 | 九期 |
| 同 | 品川 西茂 | 北本 | 十二期 |
| 同 | 小瀬 功 | 北本 | 九期 |
| 同 | 岩沢 正明 | 北本 | 十二期 |
| 同 | 松本紀久夫 | 北本 | 九期 |

連絡員名簿

| | |
|------|--------|
| 桶川 1 | 中村 雅彦 |
| 桶川 2 | 西村 一雄 |
| 桶川 3 | 原田 清利 |
| 桶川 4 | 緒方 利之 |
| 桶川 5 | 野口 さちこ |
| 北本 1 | 岩沢 正明 |
| 北本 2 | 松本 紀久夫 |
| 北本 3 | 江中 建三 |
| 鴻巣 1 | 川村 修 |
| 鴻巣 2 | 紺木 正明 |
| 鴻巣 3 | 高橋 清 |

【お願い】

会員名簿にメールアドレスを登録している方が約六割、五十名弱おられます。メールは連絡方法としては迅速・簡便・低コストゆえ活用したいと思えます。つきましては、会員名簿にアドレスが未登録の方は是非とも下記へお知らせください。
mriwasawa@ybb.ne.jp 事務局長 岩沢正明

編集後記

本創刊号は、編集長・満田省三彩央会役員（設立総会及び定例総会議長の情熱により誕生しました。声が小さくて優しい編集長のパソコン師匠・江間汎氏がレイアウト・印刷等をボランティアで引き受けてくれました。多謝、多謝。
[All For One, One For All.]
どんな時にも、裏切らない仲間がいるから頑張れる」と小山敬子氏（熊本医療法人社団大浦会理事）の実体験講義を聞いたばかりです。
会報「彩央」が彩央会会員の絆を強くできれば幸甚です。（松本）

今世界各地で非人道的な紛争や戦争が続発しています。東端がイラク、イランと接しているトルコも例外ではありません。そうしたなか、トルコの美しい風景を見、歴史の重みを感じたわたしは、かけがいのない地球や平和の大切さを改めて教えられた想いがしてなりませんでした。
彩の国びとの目で見わたしたしのトルコ見聞の旅は、あっというまに終わってしまいました。その感動の余韻はいつまでも、いつまでもわたしの心に残ることでしよう。（野口さちこ）

いきがい大学伊奈学園 彩央会会報『彩央』創刊号

発行日 平成19年7月1日
発行人 彩央会会長 松本紀久夫
北本市下石戸下480-17
電話(048-592-2133)
m-kikuo@msf.biglobe.ne.jp